

# いちご炭そ病菌の諸性質 (2・3の鉢花類に対する病原性)

## 1. 試験のねらい

いちご炭そ病菌のいちご以外の植物に対する病原性はBrooks (1931)、Mass and Howard (1985)等によって検討されているが、わが国においては、石川ら (1989)の報告が唯一である。また、数年前から多発しているいちご炭そ病菌と、ここ2・3年問題になっているシクラメン炭そ病菌との病原性の関連性について指摘されていたので、いちご炭そ病菌の2・3の鉢花類に対する病原性について検討した。

## 2. 試験方法

栃木県及び国内各地から譲与されたいちご炭そ病菌8菌株のシクラメン(あけぼの)ベゴニア(Lucerna)、シンビジウム(Goldenlime)に対する病原性並びにシクラメン炭そ病菌のイチゴ(女峰)に対する病原性を以下の方法で検討した。

接種方法は分生孢子懸濁液を $10^4$ /ml 個レベルに調整し、無傷のまま噴霧接種し、48時間多湿条件とし、その後25~35℃に管理したガラス室内で病原性を調査した。

## 3. 試験結果及び考察

いちご炭そ病菌の供試菌株はいずれもシクラメン、ベゴニア、シンビジウムに病原性を有したそれらの病徴は、従来報告のある病徴と同一であった。次いで、シクラメン炭そ病菌3菌株のいちご(女峰)に対する病原性を検討したところ、いずれもいちごに強い病原性を示し、ほ場と同一の病徴が観察された。また、ガラス室内で発病いちご株に隣接して管理したシクラメンも、接種試験と同様に発病し、いずれも接種菌が再分離できた。一方、シクラメン炭そ病菌の学名は完全時代 *Glomerella rufomaculans* var. *cyclaminis* と同種と考えられ、不完全時代は *C. cyclamenae* とされているが、von Arx は本種を *Glomerella cingulata* (= *Colletotrichum gloeosporioides*) の異名としているので、今後所属についても再検討する必要があると考えられる。

## 4. 成果の要約

いちご炭そ病菌はシクラメン、ベゴニア、シンビジウムに対し、シクラメン炭そ病菌はいちごに対しても病原性を有することが明らかになった。また、シクラメンがいちご炭そ病菌によって自然発病する可能性が示唆された。

(担当者 病理昆虫部 石川成寿)

表-1 いちご炭そ病菌のシクラメンに対する病原性

| 供試菌株     | 発病株数/供試株数 |
|----------|-----------|
| 栃木県      |           |
| NM-1     | 8/8       |
| TO90-2   | 8/8       |
| KA-3     | 4/4       |
| 静岡県      |           |
| Si No.1  | 8/8       |
| Si No.19 | 4/4       |
| 三重県      |           |
| 一志       | 4/4       |
| オバタ      | 4/4       |
| 長崎県      |           |
| Sc 8703  | 4/4       |
| 無接種      | 0/4       |

表-2 いちご炭そ病菌のシンビジウム、ペゴニアに対する病原性

| 供試植物       | 供試菌株    | 発病株数/供試株数 |
|------------|---------|-----------|
| シンビ<br>ジウム | NM-1    | 3/3       |
|            | 無接種     | 0/2       |
| ペゴニア       | NM-1    | 2/2       |
|            | Si No.1 | 2/2       |
|            | 無接種     | 0/1       |

表-3 シクラメン炭そ病菌のいちごに対する病原性

| 供試菌株  | 発病株数/供試株数 |
|-------|-----------|
| CUT-1 | 4/4       |
| CUT-2 | 4/4       |
| CHM-1 | 4/4       |
| 無接種   | 0/3       |